

国民参加による 気候変動情報収集・分析事業

三重県気候変動適応センター
(一般財団法人 三重県環境保全事業団)

2020. 1. 27 第3回気候変動適応中部広域協議会

事業の概要

1 事業期間 2019年8月～2020年3月

2 内容

(1) 県内における気候変動影響のヒアリング

農林水産業、自然生態系、健康、防災分野の20件

(2) リーフレットの作成

(1)の内容を冊子にまとめる

(3) ウェブサイトの構築

(1)の内容+日常業務を掲載するサイト

次年度以降も当センターの情報発信に活用

(4) フィードバック・報告・啓発

リーフレット等を活用しながら、ヒアリングを実施した分野の関係者に結果を投げかける（新たな気づきや取組につなげる）

県内における気候変動影響のヒアリング

ヒアリングを実施した目的

・三重県固有の気候変動影響の事例を把握する

桜の開花日、夏日の日数、降雨量の変化などは把握しているが、いずれもほぼ全国に共通の事例であって、三重県固有の事例ではない。

・三重県における気候変動適応の事例を把握する

既知の事例をより多面的・具体的に理解する（複数の関係者へのヒアリング）。
新たな事例を発掘する。

・三重県における多様な分野での気候変動影響及び適応事例を収集する

身近にある多様な分野の事例を示すことで、気候変動影響の広がりや適応の必要性への、県民や県内事業者の理解を深める。

県内における気候変動影響のヒアリング

ヒアリング対象 (1/2)

農林水産関係者(研究所、生産者) 9件

高温耐性のある米「結びの神」の開発と栽培 …… 県農業研究所、生産者

炭疽病に強いイチゴ「かおり野」の開発と栽培 …… 県農業研究所、生産者

高水温に強い黒ノリ「みえのあかり」の開発と栽培 …… 県水産研究所、生産者

魚類養殖に利用する沿岸水域の水温の測定 …… 県水産研究所

高温でも育てやすいキノコの栽培方法の開発 …… 県林業研究所

乳牛の暑熱対策 …… 県畜産研究所

※ 農林水産分野については、生産者の声を幅広く把握している各研究所に対して重点的にヒアリングを行った。

県内における気候変動影響のヒアリング

ヒアリング対象 (2/2)

防災関係者 3件

防災対策・活動への影響 …… 災害ボランティア支援センター、
防災・減災センター、市自主防災協議会

その他 8件

ギフチョウの観察 …… 小学校
暑熱による授業の中止 …… 小学校
ネコギギの保全・飼育・観察 …… 高校
ブリの稚魚の捕獲実習 …… 高校
松名瀬干潟の生物等の観察 …… 高校
暑熱による市民プールの利用中止（中止基準の策定） …… 市教育委員会
茶の栽培への影響 …… 地球温暖化防止活動推進員
伊勢湾岸におけるアカウミガメの生態 …… 地球温暖化防止活動推進員

県内における気候変動影響のヒアリング

ヒアリング結果

【米】（研究所）

- ・夏季の高温で県内の一等米の比率が低下している。
- ・高温対策として新品種（三重23号≡結びの神）を開発した。

【米】（生産者）

- ・夏季の高温でコシヒカリの生産に影響が出ている。
- ・三重23号は高温に強く食味も良い。強い風にも倒れにくい。

【いちご】（研究所）

- ・夏季の高温化で炭疽病発生リスクが高まっている。収穫時期が遅くなっている。
- ・炭疽病対策として新品種（かおり野）を開発した。

【イチゴ】（生産者）

- ・炭疽病の影響は大きい。2018年は炭疽病により苗不足が起こった。
- ・かおり野は炭疽病に強い。早い時期から収穫できる。

県内における気候変動影響のヒアリング

ヒアリング結果

【茶】（生産者）

- ・新茶の摘み取り時期が早まっている。秋の整枝の時期は遅くなっている。
- ・夏の水不足で茶の木が枯れる恐れがある。

【乳牛】（畜産研究所）

- ・夏季の高温で乳牛へのストレスが高まっている。
- ・暑さにより生乳の生産量が減り、受胎率が下がっている。

【キノコ】（林業研究所）

- ・キノコ栽培施設の夏季の空調経費が増加している。
- ・高温でも栽培可能なきのこを選んで、栽培方法を開発した。

【黒ノリ】（水産研究所）

- ・海水温の上昇で、黒ノリの種付け時期が遅れている。
- ・高い水温でも栽培できる新品種（みえのあかり）を開発した。

県内における気候変動影響のヒアリング

ヒアリング結果

【黒ノリ】（生産者）

- ・年を追うごとに種付けの時期が遅くなっている。
- ・海水温が変化が不安定なため、種付けをする時期を見極めるのが難しい。
- ・水温も問題だが、今、最も困っているのは色落ちの問題。

【沿岸での魚類養殖】（水産研究所）

- ・2016年に魚病診断の件数が増加。原因として海水温の上昇を疑い、詳細な水温測定を開始。
- ・長期的なデータを検証したが、沿岸での海水温の上昇は確認出来なかった。海水温は年毎のばらつきが大きい。

【ブリの稚魚】（高等学校）

- ・授業の一環としてモジャコ（ブリの稚魚）の捕獲を行っている。
- ・年毎に捕獲できる個体数にばらつきがある。2019年はモジャコの成長が早く、捕獲が出来なかった。

県内における気候変動影響のヒアリング

ヒアリング結果

【ギフチョウ】（小学校）

- ・桜の開花が早まるのと同様に、ギフチョウの羽化も早くなっている。

【ネコギギ】（高等学校）

- ・絶滅が危惧される淡水魚ネコギギの保護と繁殖に取り組んでいる。
- ・豪雨による河川への土砂流入がネコギギの生息を脅かしている。

【松名瀬干潟】（高等学校）

- ・南方系のカニであるハクセンシオマネキが増加している。
- ・干潟の底質と生息する生き物がともに変化してきている。

【アカウミガメ】（自然保護団体）

- ・砂浜の減少がアカウミガメの産卵に影響を及ぼしている。
- ・2018年、子ガメが昼間に巣穴を出て海へ向かう異常行動を確認している。砂中温度の高温化が原因ではと疑っている。

県内における気候変動影響のヒアリング

ヒアリング結果

【風水害】（防災・減災センター）

- ・過去に大雨が降ったことのないような地域にも大雨が降るようになっている。

【風水害】（災害ボランティア支援センター）

- ・内水氾濫が目立つようになっている。地域毎の事情を反映したインフラ整備が必要。

【風水害】（自主防災協議会）

- ・行政は温暖化に対応したインフラ整備を進めているが、それだけでは不十分。
- ・温暖化を自分事として捉えるような啓発が重要。個人の意識が変われば行動が変わる。

【熱中症】（小学校）

- ・2018年、猛暑のため授業を中止した。
- ・暑さ対策としての帽子の着用、水分補給は以前から徹底している。

【熱中症】（市役所）

- ・2018年、猛暑のため、市民プールの利用を中止した。
- ・2019年からは、利用中止基準を定めて、市民プールを運営している。

フィードバック・報告・啓発

2019年度の実績と予定

当センター主催の説明会 2月7日（三重県庁関係部局、国関係機関対象）

ヒアリング対象者その他関係者にウェブサイトへの掲載をお知らせ

//

リーフレットの配布とアンケート実施

※適応推進に向けた意見交換会(11/22)、中部広域協議会(本日)、成果報告会(2/28)

今後の課題

効果的な普及啓発方法・機会の検討（誰に、何を、どのように伝えるか）

市町や事業者団体向けの説明会の開催

ヒアリング対象者（機関）と連携した啓発